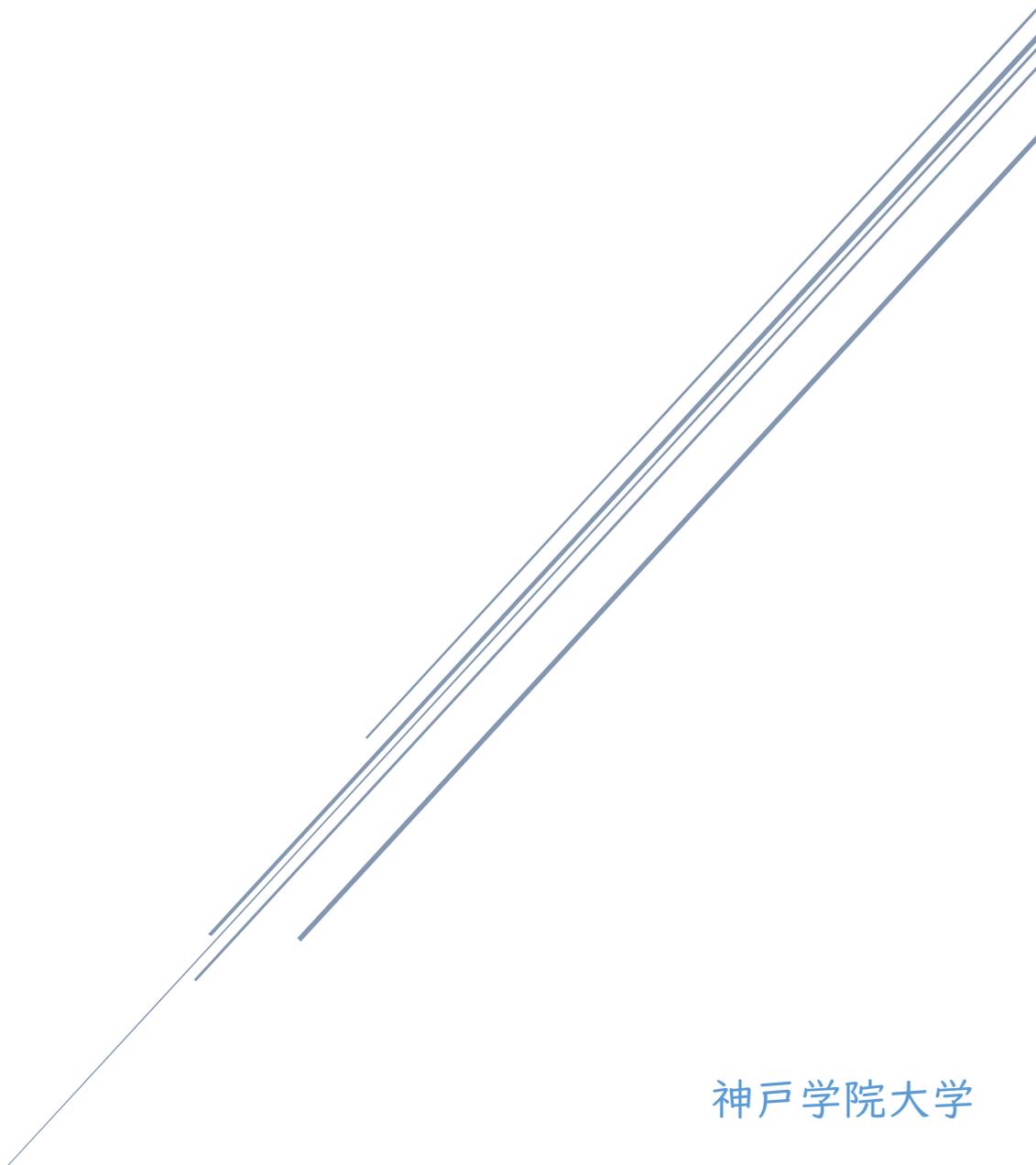


神戸学院大学授業アンケート 報告書

2024 年度後期



神戸学院大学
全学教育推進グループ

1.神戸学院大学授業アンケートについて

本学では、教員の授業方法の改善および教育力向上を目的とし、「授業アンケート」を実施しております。アンケート集計結果については、各学部等に返却するとともに、アセスメント・プラン（<https://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/assessment.html>）「授業科目レベル」で活用しております。また、学部・研究科・センター別の集計結果を公表しております。

2.授業アンケートの実施方法と内容

2.1 実施授業科目および対象者

授業科目：各学部等が選定した科目（実施科目数：1,415）

対象者：上記授業を履修している学生（延べ人数。対象者数：73,320名）

2.2 実施日程

総合リハビリテーション学部・栄養学部：2024年11月11日（月）9時00分～2025年2月6日（木）23時59分

薬学部：2024年11月11日（月）14時00分～2025年2月6日（木）23時59分

法学部・経済学部・経営学部・人文学部・心理学部・現代社会学部・グローバル・コミュニケーション学部・共通教育センター・スポーツサイエンス・ユニット：2024年12月9日（月）9時00分～2025年2月6日（金）23時59分

2.3 実施方法

実施期間の該当科目授業時間中に原則的に実施。インターネットを通じてWebシステムより回答。

2.4 設問の概要

全学部全科目共通の設問 10 問（選択式、4件法）と自由記述（別紙参照）。経営学部・薬学部については独自の設問を設けている。

2.5 教員へのアンケート結果提供方法

インターネットを通じてWebシステムより結果を確認。

2.6 学生へのフィードバック

科目ごとに各教員がアンケート結果を確認の上、Webシステムよりコメント欄に入力。学生はWebシステムより回答した科目の集計結果および教員コメントを参照可能。

3.授業アンケートの結果

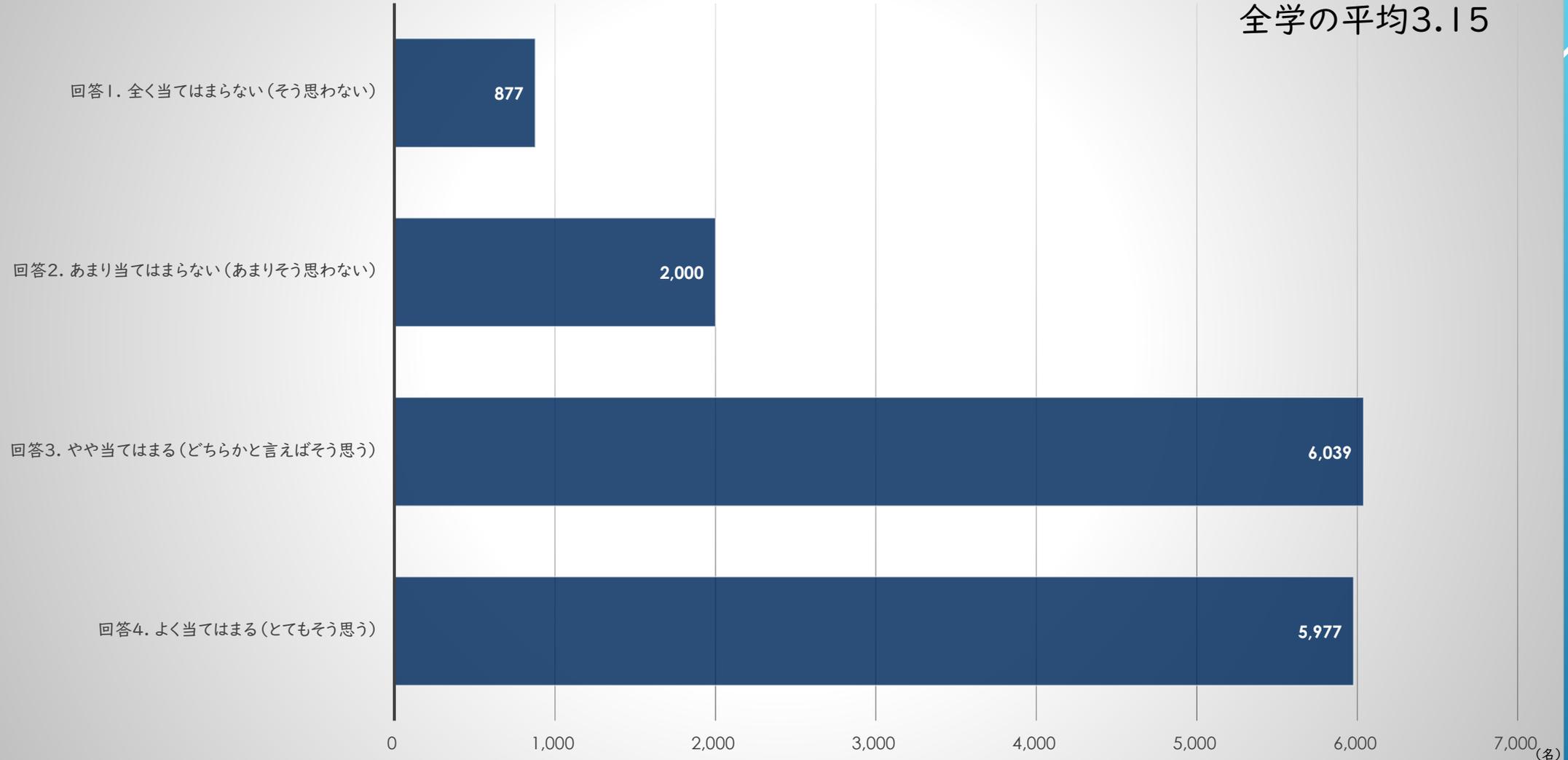
別紙「2024年度後期授業アンケート（学士課程集計）」参照。

2024年度後期授業アンケート (学士課程集計)



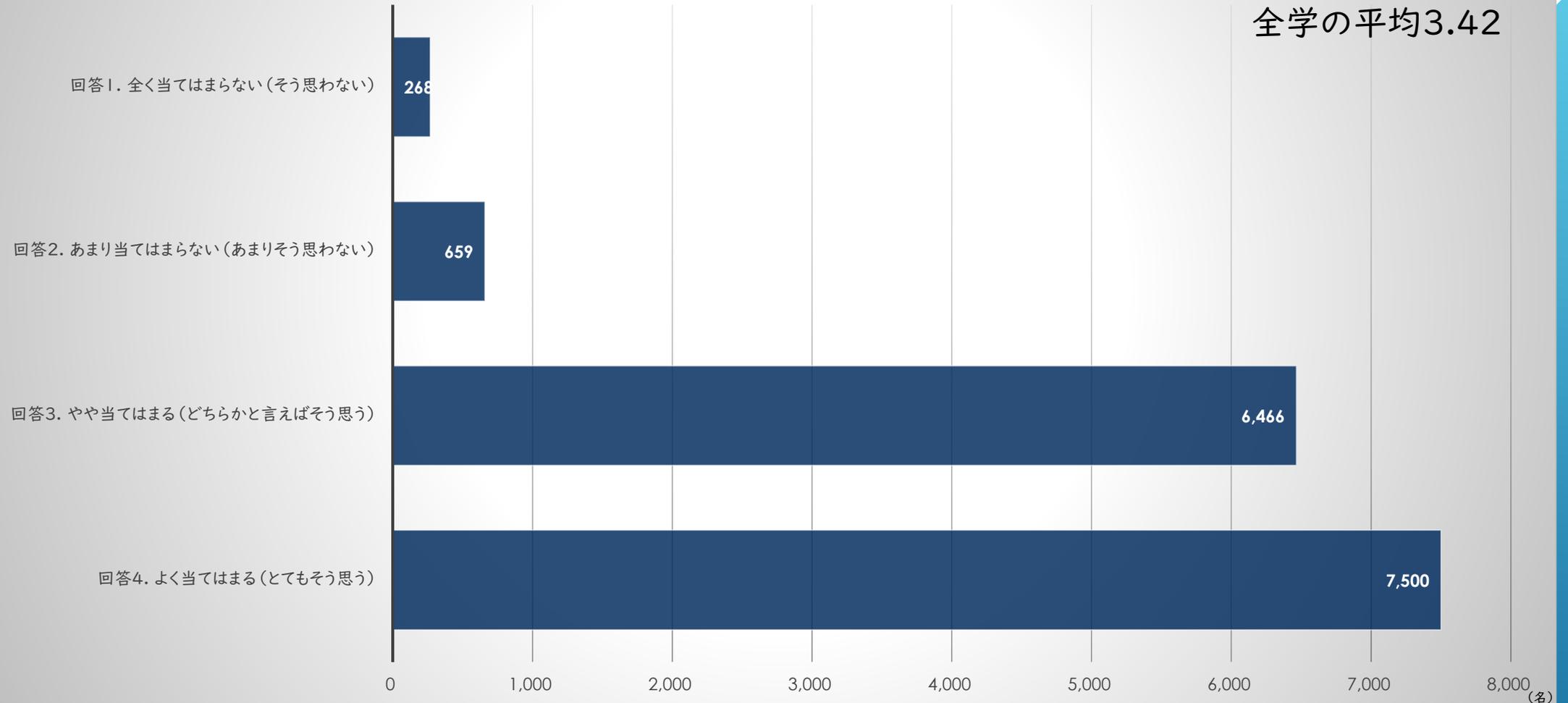
設問1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか

全学の平均3.15



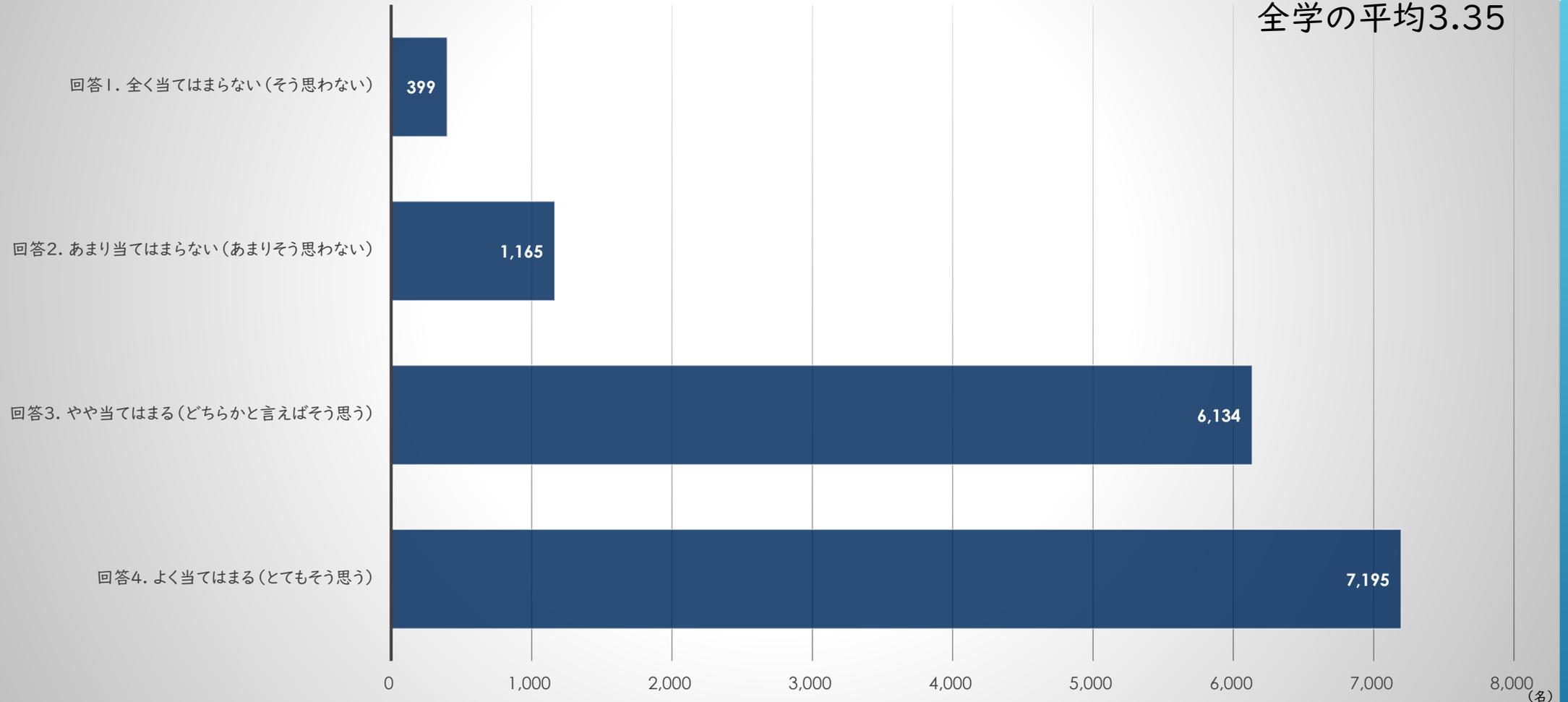
設問2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか

全学の平均3.42



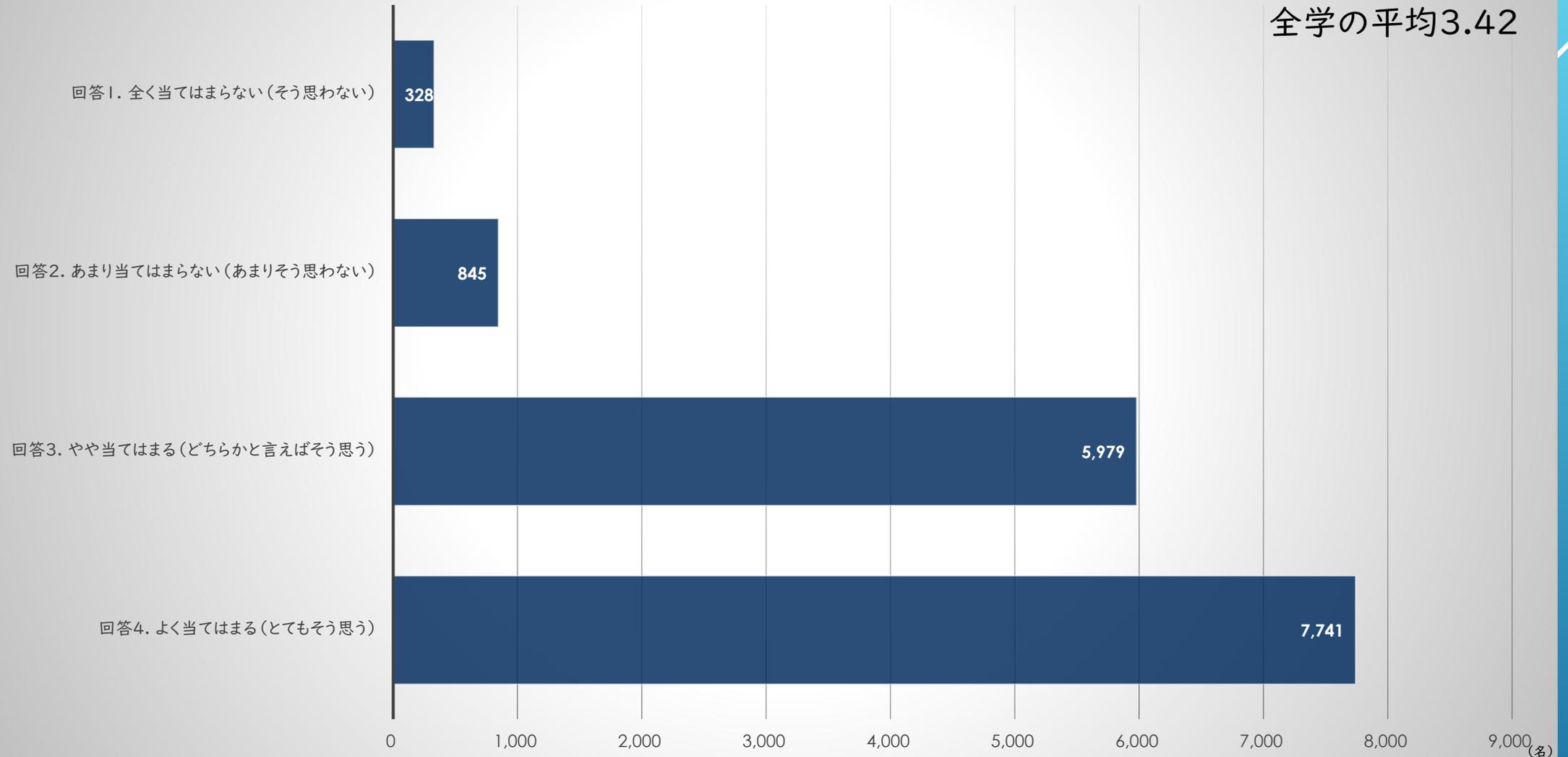
設問3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いま すか

全学の平均3.35



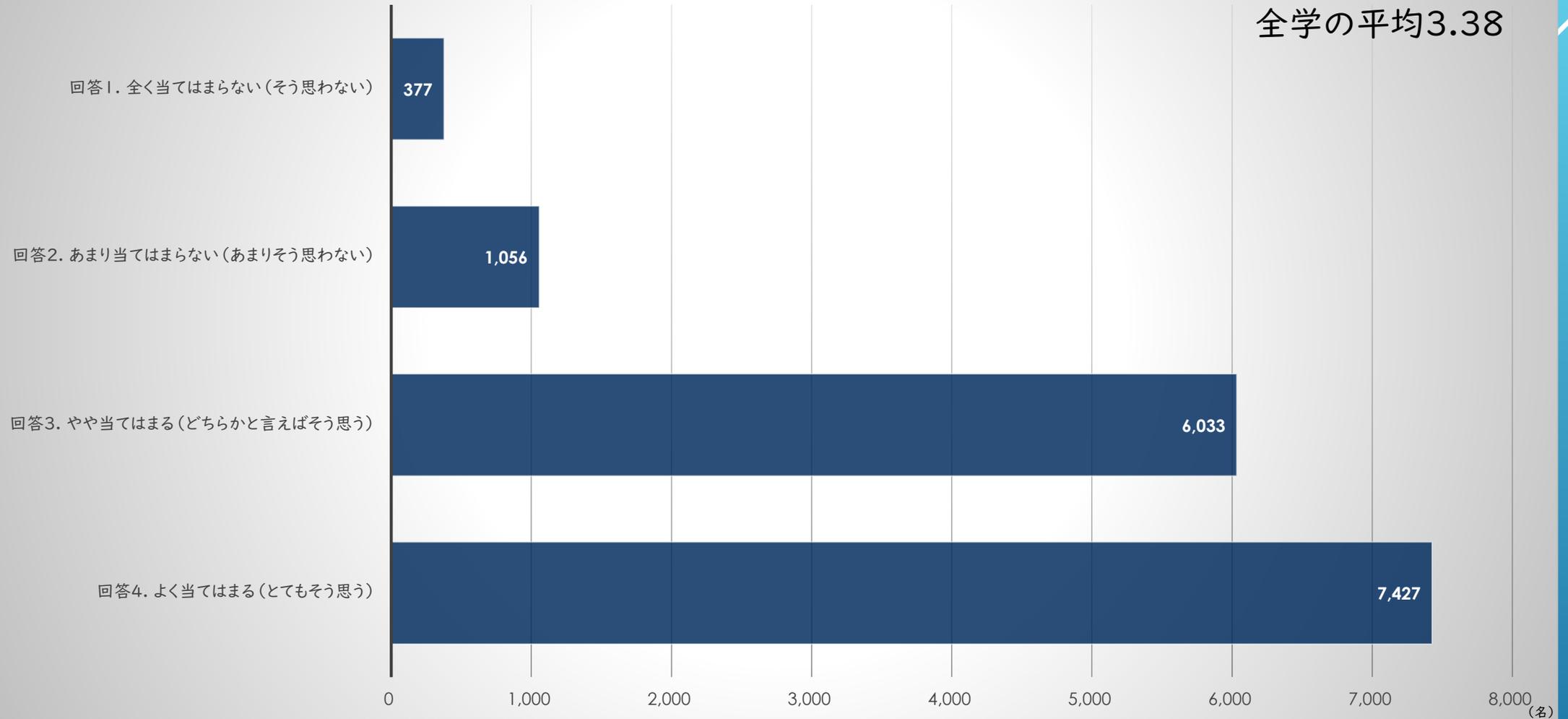
設問4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか

全学の平均3.42



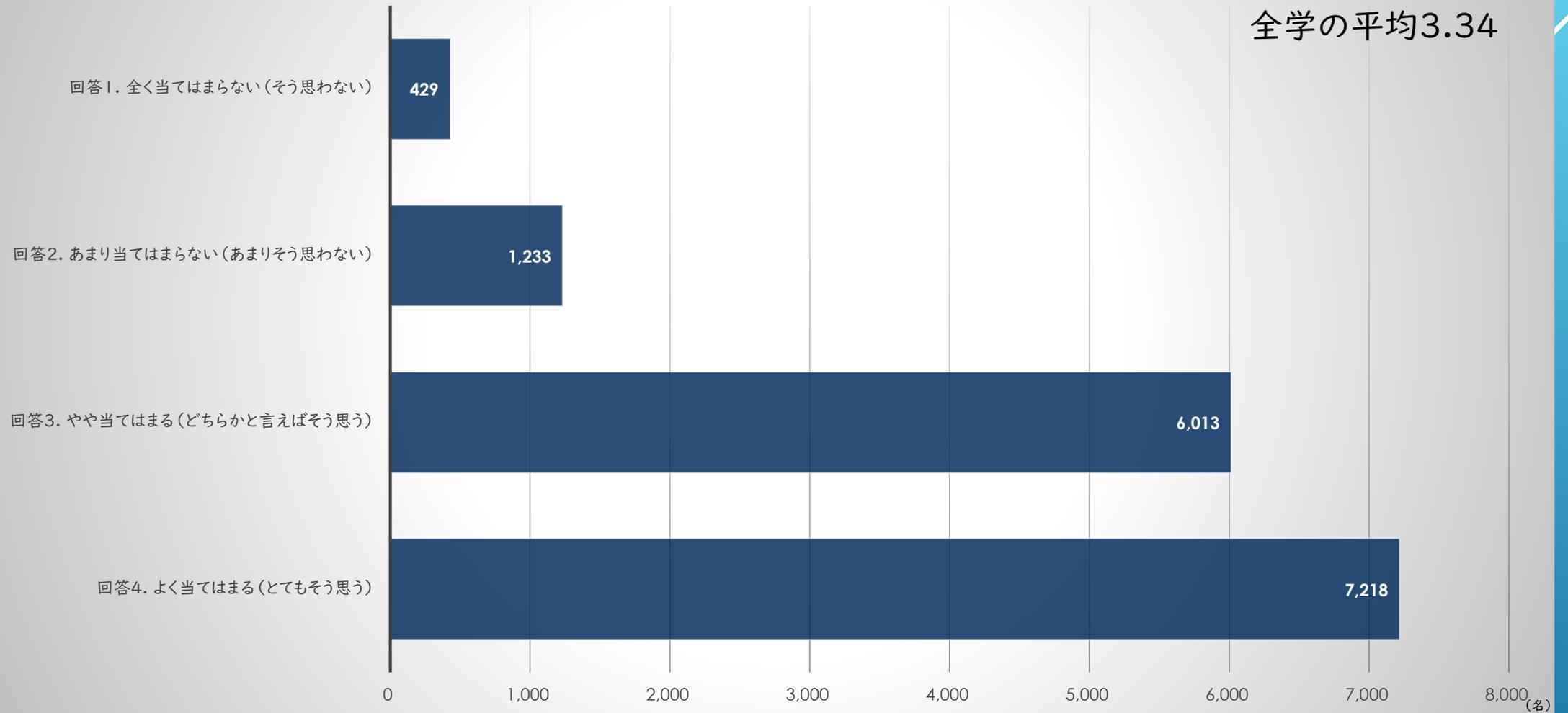
設問5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか

全学の平均3.38



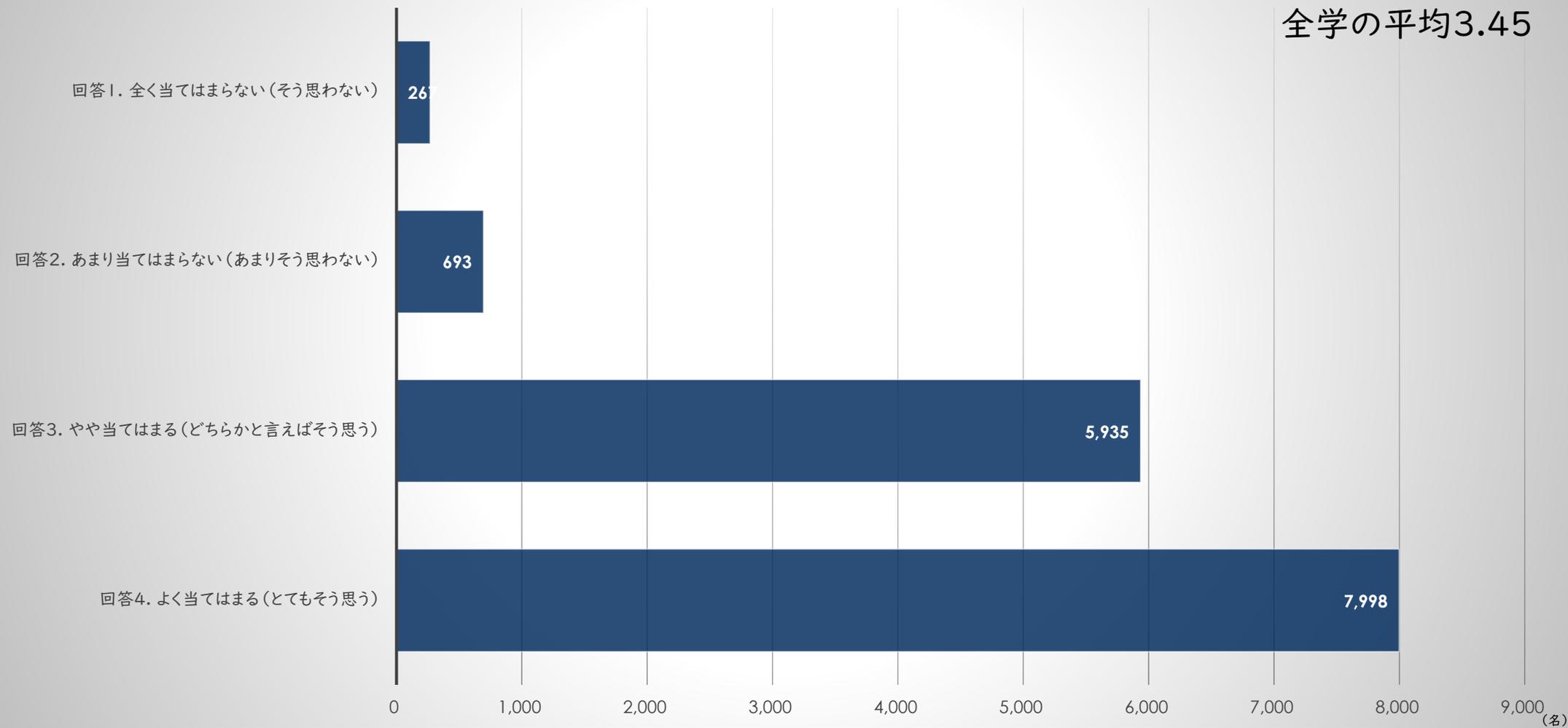
設問6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようとしていると感じましたか

全学の平均3.34



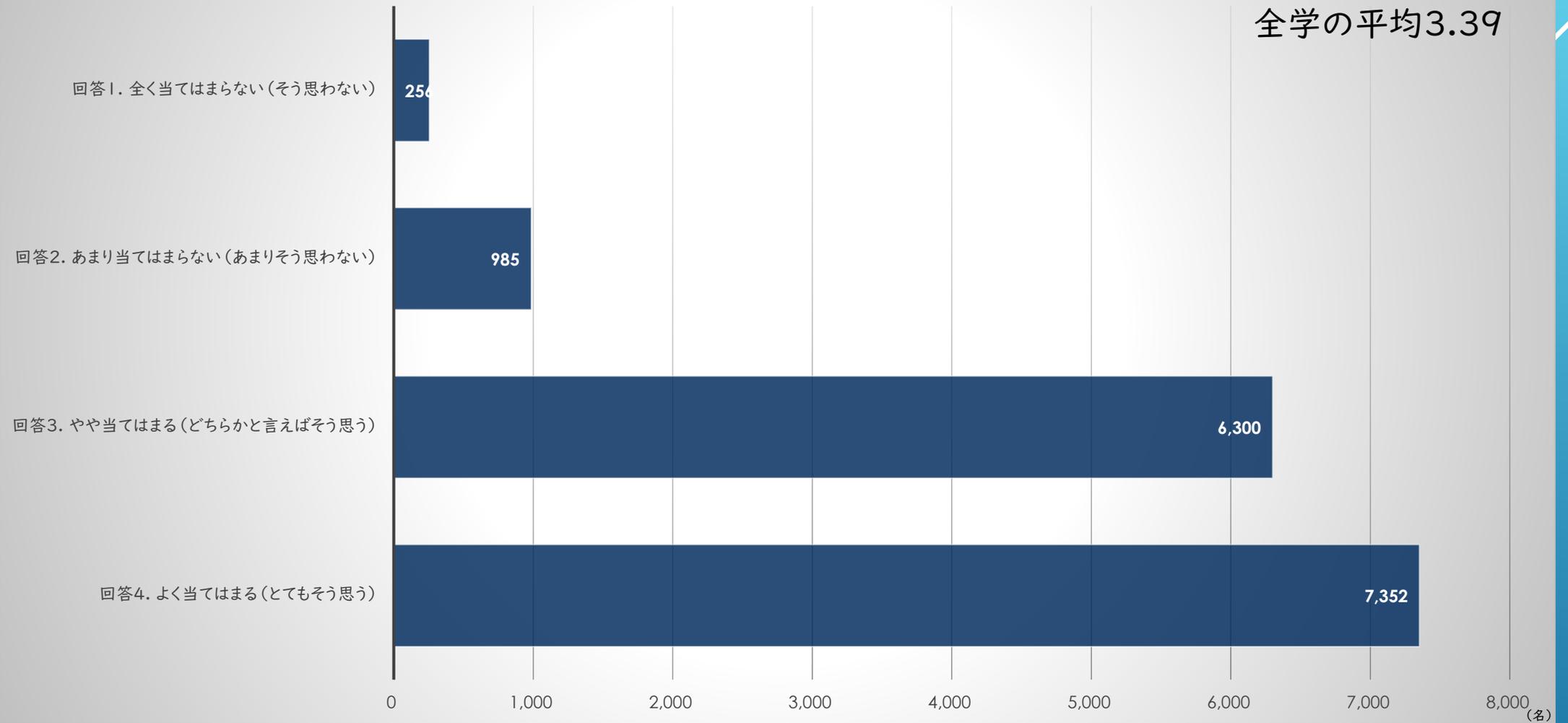
設問7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか

全学の平均3.45



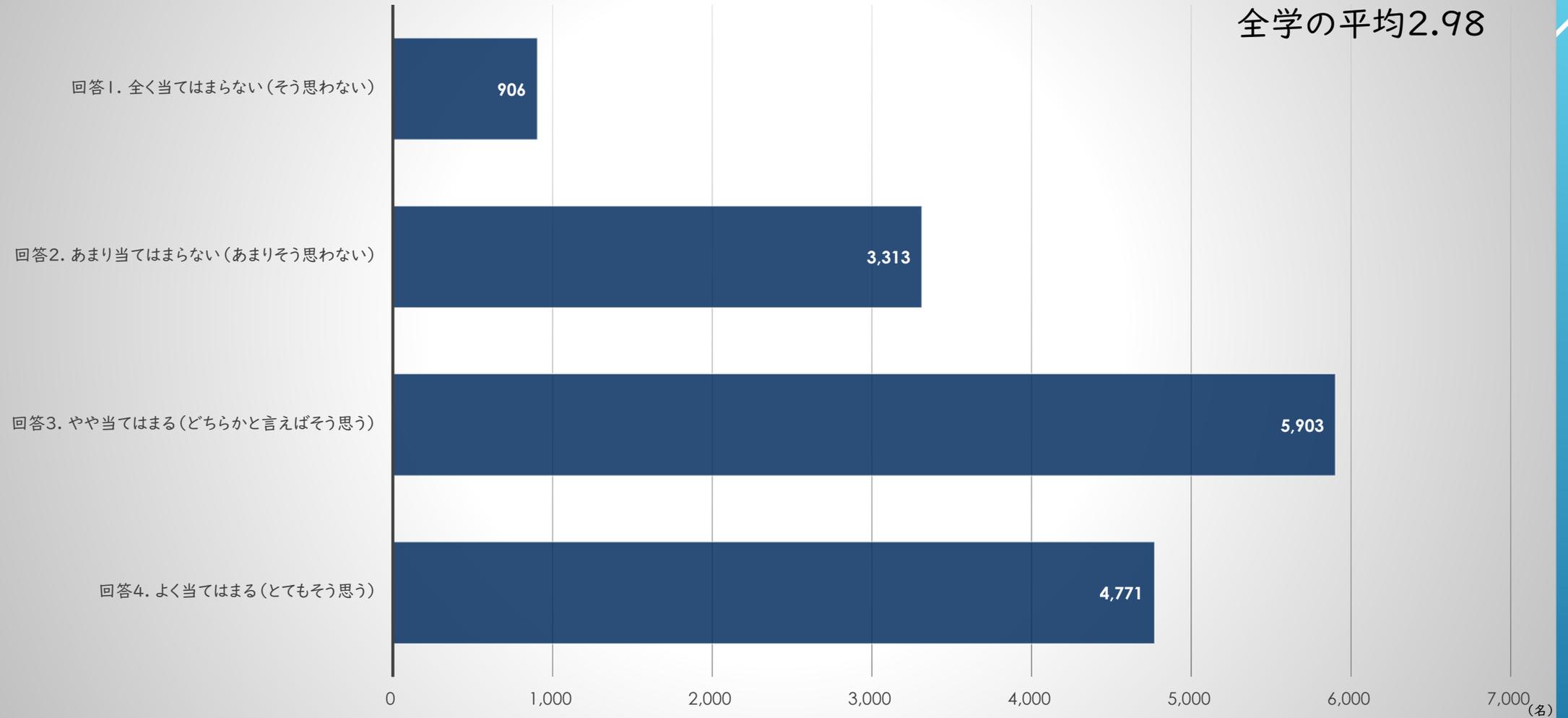
設問8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか

全学の平均3.39



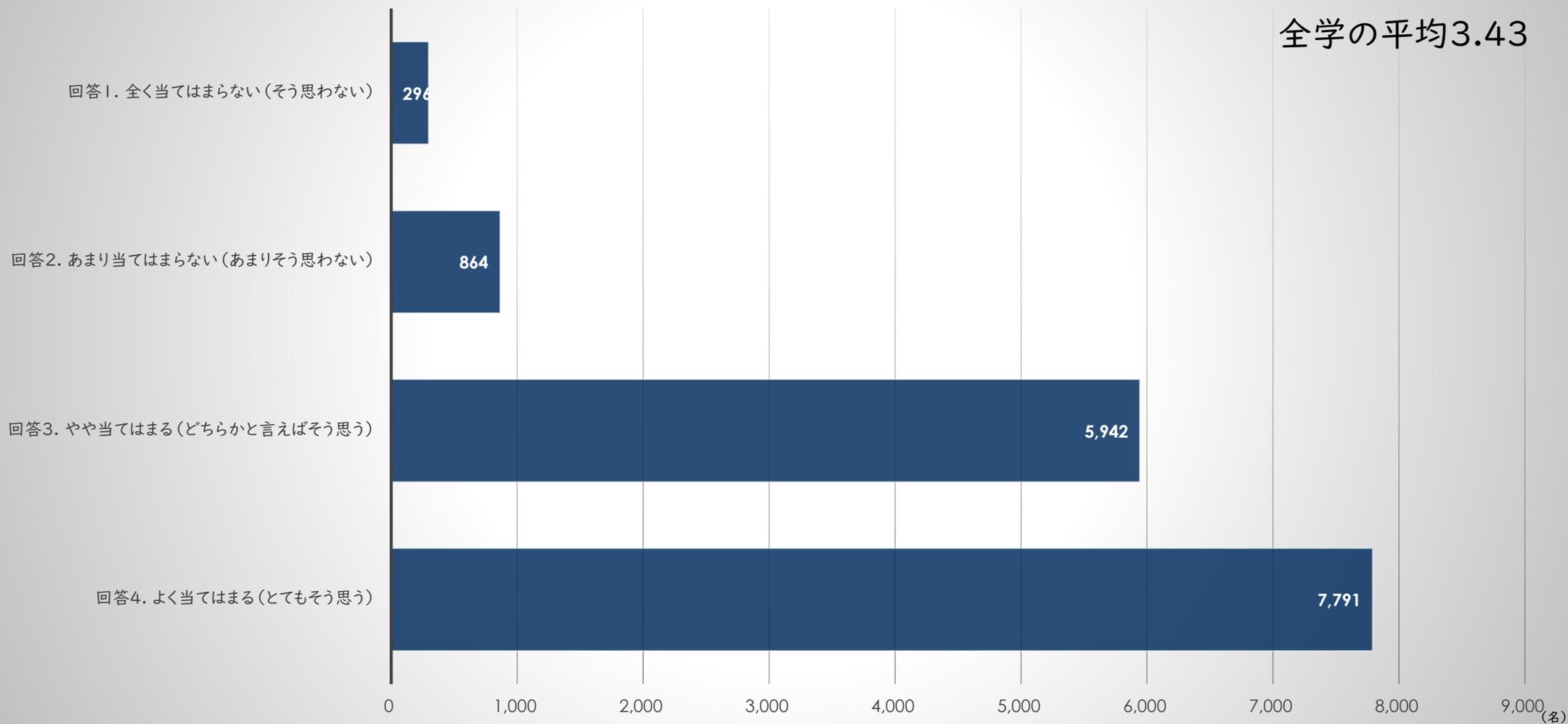
設問9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか

全学の平均2.98



設問10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか

全学の平均3.43



2024 年度後期授業アンケート報告書

法学部

【実施期間】2024 年12月9日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】 57

【回答率】 10.5 %

【結果の概要・分析】

法学部における 2024 年度後期授業アンケートの実施状況について、実施科目数は57科目、当該実施科目における履修者数は6,684名、うち回答者数は699名となっており、回答率は10.5%であった。大学全体での回答率は20.36%であり、それと比べると法学部では前期に続き回答者数が少なかったといわざるを得ない。法学部における回答率は前期の18.8%よりも8.3%下がっており、今後、アンケート実施期間内の授業時等において、教員から学生に対して、より一層アンケート実施の周知を図り、アンケートへの回答協力を強く求めていく必要があることはもちろんであるが、大学全体の回答率も春学期より9.74%下がっており、この点の原因はどこにあるのか、大学全体としても要検討の課題であろう。

栄養学部は回答率63.6%と相変わらず高い数値を出しておられ、心理学研究科(履修者数が100名未満である点には留意)やグローバル・コミュニケーション学部も高い回答率であり、春学期に引き続き、それらの高い回答率になっている学部の対応方針を参考にしつつ、本学部においても回答率向上を図っていく必要がある。

また、アンケートの設問11 自由記述欄における意見等では、授業が工夫されている、説明が分かりやすい等といった肯定的な意見も多数あるものの、逆に、説明が難しすぎる、黒板の字が小さすぎて見づらかった、オンデマンドの授業で過去の動画を使いまわしていた等の意見や、レジュメ内容の不十分さを指摘する意見等、改善を求める声も複数出されていた。回答率自体が前期よりもさらに低いうえに、自由記述欄に意見や感想等を記した学生はさらに少数のため、その点は勘案してこれらの意見を捉えていけないといけないうえに、学生の真摯かつ適正な意見に対しては、しっかりと耳を傾けて、学部として改善に努めていかなければならない。

【授業改善への活用方法】

前期と同様になるが、まずは来年度以降、アンケートの回答率がもっと上がるようにさらなる工夫をし、また学生への協力を強く求めていかなければならない。

そのうえで、次には各科目のアンケート結果や自由記述欄の意見等を、各担当教員が真摯に受け止め、とりわけ改善を求められている点について事実であるならば、その原因を教員各自でも改めて検討し、必要な場合には今後改善するように努めていかなければならない。

各教員が個々に検討・対応していただくだけでなく、例えば、今年3月に外部講師を招き実施したFD研修会での内容等も踏まえ、学部のFD等においてアンケート結果の活用方法を議論し、具体的に一定時期のアンケート結果に基づき、学生から出された意見等に関して学部教員全員で検討し、情報共有したうえで、改善策を相互に提案・検討していく等の方法も必要となってくるであろう。

2024 年度後期授業アンケート報告書

経済学部

【実施期間】2024 年 12 月 9 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】29

【回答率】18.0%

【結果の概要・分析】

◆アンケートの対象科目について

ディプロマ・ポリシーもしくはカリキュラムチェックの観点から、2023 年度後期の授業アンケートからコース科目の一部を対象に加え、一方で、リテラシー科目（データサイエンス科目）の人数制限がある少人数科目の一部を対象からはずした。さらに、2024 年度前期からは、専任教員は 1 年に 1 度は授業アンケートの対象とすることとなったため、後期は関連科目や実践力科目にも対象を広げた。

◆回答率の状況について

表 1 は過去 4 年間の経済学部の授業アンケートへの回答率の状況をまとめたものである。2024 年度後期の回答率は前期に比較すると低下し、2023 年度後期と比べても低下した。前期との比較に関しては、全学においても後期は前期より低下する傾向がみられる（前期 30.1%，後期 20.36%）。2023 年度後期との違いの原因の 1 つとしては、授業アンケートの案内チラシの配布量の違いが考えられる。2023 年度後期、2024 年度前期・後期はいくつかの基幹科目での配布の依頼をした。2023 年度後期はそれに加えてチラシを学部長室に置いたところ、幾つかの科目でご協力いただいた。

表 1 授業アンケート回答状況（経済学部）

	前期			後期		
	回答者数	履修登録者数	回答率%	回答者数	履修登録者数	回答率%
2021 年度	563	3,311	17.0	350	2,116	16.5
2022 年度	954	3,191	29.9	388	1,775	21.9
2023 年度	846	3,280	25.8	737	2,279	32.3
2024 年度	994	3,588	27.7	405	2,244	18.0

出所：「授業アンケートの集計結果」より作成。

<<https://www.kobegakuin.ac.jp/iphe/enquete/>>

◆アンケート結果について

表 2 は 2024 年度の授業アンケートにおける設問への回答の結果を経済学部と全学で比較したものである。全学との比較では、前期同様、後期も設問 1 以外、全学平均を下回る。経済学部の得点を前期と比べると、後期は 10 項目のうち 8 項目で上昇した。全学の得点も前期よりすべての項目で得点は上昇しているが、全設問の得点を合計すると、経済学部の上昇の方が全学を上回り、全学からの得点の差は-1.37 から-1.25 へと縮小する結果となった。対象科目、履修登録者数、解答率、全学の結果等が異なるので単純な解釈はできないが、よい傾向といえよう。回答率やアンケート結果に一喜一憂することなく、引き続き、授業改善に向けて工夫が求められる。

表 2 2024 年度授業アンケート 4 段階リッカートスケール法による得点と設問内容

設問 番号	2024 年度前期			2024 年度後期			後期-前期	
	経済	全学	乖離	経済	全学	乖離	経済	全学
1	3.22	3.14	0.08	3.26	3.15	0.11	0.04	0.01
2	3.31	3.40	-0.09	3.31	3.42	-0.11	0.00	0.02
3	3.11	3.32	-0.21	3.15	3.35	-0.20	0.04	0.03
4	3.20	3.38	-0.18	3.28	3.42	-0.14	0.08	0.04
5	3.17	3.35	-0.18	3.18	3.38	-0.20	0.01	0.03
6	3.11	3.31	-0.20	3.19	3.34	-0.15	0.08	0.03
7	3.21	3.41	-0.20	3.29	3.45	-0.16	0.08	0.04
8	3.25	3.37	-0.12	3.28	3.39	-0.11	0.03	0.02
9	2.85	2.93	-0.08	2.84	2.98	-0.14	-0.01	0.05
10	3.20	3.39	-0.19	3.28	3.43	-0.15	0.08	0.04
合計	31.63	33.00	-1.37	32.06	33.31	-1.25	0.43	0.31

注:乖離は経済の得点から全学の得点を引いた値。

設問
1 あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか
2 あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか
3 あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか
4 あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか
5 あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫を感じましたか
6 あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか
7 あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることができましたか
8 あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか
9 あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか
10 あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか

【授業改善への活用方法】

さらなる授業改善への動機づけや次期カリキュラム改善につながるよう、3 月の教授会において、2024 年度後期の授業アンケートについて回答率や設問への回答状況のまとめを回覧した。

2024 年度後期授業アンケート報告書

経営学部

【実施期間】2024 年 12 月 9 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】115

【回答率】12.0%

【結果の概要・分析】

概要であるが、今回の後期の回答率は8,677人のうち、1,042人(12.0%)であった。この割合は全体として少ない数値であった。前期は 9,522 人のうち、1,961人(20.6%)であった。参加を呼び掛けているが、前期よりもさらに低い数値となったのは残念な結果である。来年度は大人数授業ではなく、むしろ少人数の授業に対して複数科目をターゲットにした方が確実に回答を得られるのではないかという意見もあった。

内容に関する分析は以下のとおりである。

1) 平均値からの考察(数値)

たとえば、全学の平均値よりも低かった回答のひとつは設問 3.あなたは、教員の説明が授業を理解するためにわかりやすかったと思いますか、であった。全体平均が 3.35、経営学部平均値が 3.33 でわずかに下回ったが、これは平均値とみてもよいと考えている。このように判断すると経営学部としてはおおむね、大学全体の平均的な得点になっていると分析できる。ただし、気になる点としては設問 1 のシラバスを読んだか?という質問に対しては読んでいない学生が平均的には多い(全学 3.27、学部 3.15)ことである。なお、設問3～10 はわずかではあるが平均値を上回っている。

これらを考察すると学生側はシラバスなどを読んでいるとは言えないが、教員に対するの評価はまずまず平均値よりも高く、それなりに教員や授業に対しては数値的には大きな不満はないと考えられる。

2) 記述からの考察

課題の期限提示やレジュメ内容のわかりやすさなどは教員側の注意事項かと思うが、成績に関する箇所(試験での評価が 100%など)はシラバスに表記があるので、学生側の問題である。授業の進め方に関してはおおむね肯定的であるが、教員の発言(誹謗中傷)に対しては相応しくない状況などを指摘されているので、そのあたりは教員側の注意が必要である。

【授業改善への活用方法】

- 1) 回答率をあげるために、授業の最終回ではなく、その前あたりに授業内でしっかり時間をとることを次回は試みたい。あるいは、対象科目の選定の見直しも考えたい。
- 2) 課題提出時の期日の明記、授業内での暴言ととれる発言については教授会などで報告として全体に注意を促すこととする。
- 3) ビジュアルな教材の評判がよいので、ビジュアルな教材に関する情報収集をはじめ、教材に適しているようなものを選定し、各教員に紹介できるようなことを試みたい。

2024 年度後期授業アンケート報告書

人文学部

【実施期間】2024 年12月9日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】67

【回答率】12.2%

【結果の概要・分析】

人文学部の後期授業アンケートの回答者数はのべ 3754 名、回答率は 12.2%であった。後期は設問9、10を除いてすべて全学平均を上回っている。設問1の結果より、人文学部の学生はシラバスを事前によく読んで講義を選択している学生が多いことがうかがえる。教員に対する要望として、設問6(学生の理解度を把握できているか)における批判的な評価が目立った。学生の理解度に応じた授業の進行が求められていることがうかがえる。一方で設問9(授業時間外学習に取り組んだか)については、約6割の学生が「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えており、全学平均も下回ることから、この点には工夫の必要があると考えられる。人文学部の学問範囲が広いことは、学部の特長であると共に、幾つかの設問での批判的反応の一因となっているものと考えられる。

設問ごとの結果は以下の通りである。

・設問1(あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか)

学部平均 3.44 で全学平均 3.15 を上回る。回答者の 91%が「やや当てはまる」、「よく当てはまる」と回答しており、大半の学生は履修登録前にシラバスを読んでいるとみられる。

・設問2(あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか) 学部平均 3.46 で全学平均 3.42 を上回り、5%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。

・設問3(あなたは、教員の説明が授業内容を理解するためにわかりやすかったと思いますか) 学部平均 3.41 で全学平均 3.35 を上回る。8%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しているが、これは前述の学問範囲が広いことも一因と考えられる。

・設問4(あなたは、教員が学習空間としてふさわしい環境を提供できていたと感じますか) 学部平均 3.47 で全学平均 3.42 を上回る。7%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答しており、概ね、学習にふさわしい環境が提供できている。

・設問5(あなたは、教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じましたか) 学部平均 3.43 で全学平均 3.38 を上回る。8%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答している。学問範囲が広いだけに、学生の理解に向けた教員の工夫が必要であると考えられる。

・設問6(あなたは、教員が学生の理解度を把握しようと努めていると感じましたか) 学部平均 3.38 で全学平均 3.34 を上回る。10%が「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答した。他の項目と比較して不満のもっとも現れた点であり、改善が必要である。

・設問7(あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方をすることはできましたか) 学部平均 3.53 で全学平均 3.45 を上回る。95%が「よく当てはまる」、「やや当てはまる」と回答しており、多くの学生が授業を通じて新たな知見を獲得できていると考えられる。

・設問8(あなたは、この授業に積極的、意欲的に参加しましたか) 学部平均 3.39 で全学平均 3.39 とほぼ同等である。92%が「よく当てはまる」、「やや当ては

まる」と回答しており、大半の学生が意欲的に取り組んでいる。

・設問9(あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか)

学部平均 2.77 で全学平均 2.98 を下回る。60%の学生が「全く当てはまらない」、「あまり当てはまらない」と回答しており、前期の40%よりも高い数値となっている。他の設問に比べて平均値が低いため、学生への指導に工夫の余地があるものと考えられる。

・設問10(あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか)

学部平均 3.38 で全学平均 3.43 を下回る。ただし、この設問で問われている将来性という概念にはやや曖昧な点が認められるので、具体的な評価は避ける。

・自由記述欄について

授業がわかりやすかったなどのポジティブなコメントと、改善要望を伝えたいコメントとに分かれる。教員の丁寧な解説や、課題等へのフィードバックに対しては、教員の配慮や工夫を感じる学生が多い。アンケートの設問6で、担当教員が学生の理解度を把握していないように感じるという学生が一定程度いるのは、このフィードバックの有無と関係する可能性があり、検討の余地がある。また改善要望は具体的な説明が多く、学生がどのような講義を望んでいるのかわかることから、担当教員もすぐに対応できるケースが多いと考えられる。

【授業改善への活用方法】

教員は個別に授業アンケートの結果を確認し、次年度以降の授業改善に活用しているほか、可能な場合はフィードバック(自由記述欄への返答)等を行っている。

2024 年度後期授業アンケート報告書

心理学部

【実施期間】2024 年 12 月 9 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】27

【回答率】15.9%

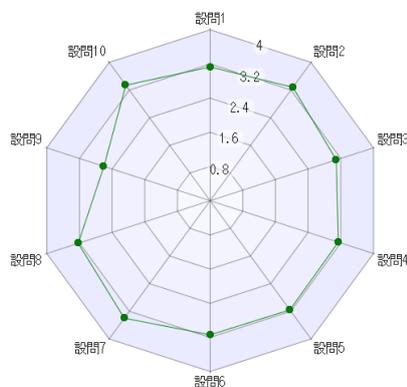
【結果の概要・分析】

回答率が約 15%にとどまっており、前期の約30%を大幅に下回る結果となった。内容については前期と同様に、授業の意義や満足度、望ましさに関する質問への回答については、概ね肯定的(「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」と)の回答であった。

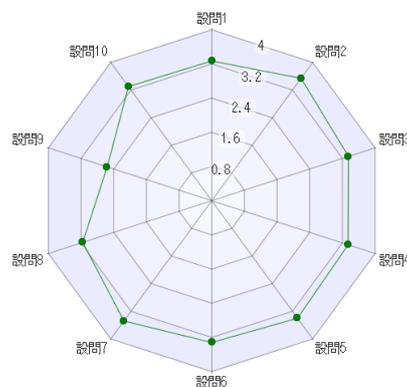
特に設問 2「あなたは、この授業が最初の授業で説明されたシラバスに沿って進められたと思いますか」と設問 7「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか」は「3.どちらかといえばそう思う」「4.とてもそう思う」と回答した学生が 100%近くになっており、シラバスの提示方法や授業内容等に対し高い評価がなされているといえる。

一方、設問 9「あなたは、予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」に対しては、前期と同様に約半数の学生が「1.そう思わない」「2.あまりそう思わない」と回答しており、引き続き課題となっていた。

心理学部授業アンケート結果：前期



心理学部授業アンケート結果：後期



自由記述では、難しい授業内容であっても丁寧な指導があったことや、教員の授業への工夫に対し謝意が記述されていた。また、私語が受講の妨げになるため環境を整備してもらいたいとの要望があり、熱意をもって受講していることがわかった。

【授業改善への活用方法】

全体の評価としては概ね良好であるが、授業アンケートの回収率と学生の授業時間外学習、および、授業環境の整備に関して課題があるため、FD 研修会で改善方法について検討する予定である。

2024 年度後期授業アンケート報告書

現代社会学部

【実施期間】2024 年12月9日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】 91

【回答率】 14.3%

【結果の概要・分析】

1. 概要

現代社会学部では、前期に引き続き、2024 年度後期にも授業アンケートを実施した。本アンケートは、授業の質を把握し、今後の改善に活かすことを目的としている。対象となったのは、2024 年度後期に開講された 91 科目であり、これらの授業の延べ履修者数は 5,155 名であった。そのうち、739 名がアンケートに回答し、回答率は 14.3%であった。回答率向上を図るための施策として、受講者が多い授業を対象にチラシを配布し、授業アンケートの実施を周知した。しかし、前期(25.3%)と比較すると、回答率は低下した。原因は不明であるが、さらなる回答促進策の検討は必要である。

2. 回答傾向

今回のアンケートの回答傾向は前期とほぼ同様であった。授業の進め方、教員の説明のわかりやすさ、授業環境など、設問 1 から 10 において、全体的に大きな偏りは見られなかった。

3. 自由記述(設問 11)における意見の傾向

自由記述欄では、授業の工夫に関するポジティブな意見と、授業運営に対する不満点の両方が寄せられた。

(1) 授業をより分かりやすくするための工夫

①動画の活用:授業の補助教材として動画を活用することで、授業内容の復習がしやすくなる。特に難解なテーマを扱う授業では、映像資料が有効であるとの声があった。

②演習やグループワークの導入:知識を実践的に活用できるよう、演習やグループワークを取り入れた授業は理解の助けになったと言う声があった。特に、学生同士の意見交換を促すことで、より深い理解につながると考えられる。

③コメントシートへのフィードバック:授業中に提出するコメントシートについて、教員からの具体的なフィードバックを得ることで、学生は正当に評価されていると感じ、満足している。

④一息つける時間の設定:長時間の講義では集中力が続かないため、途中で短い休憩時間を設けてほしいという意見があった。適度な休憩を挟むことで、学習効果の向上が期待できる。

(2) 授業運営に関する不満点

①突然の休講:事前の連絡なしに授業が休講になるケースがあり、学生の混乱を招いている。休講の際は、可能な限り早めに通知することが求められる。

②教員の遅刻:一部の授業において、教員が遅刻するケースがあるとの指摘があった。特に、授業開始が遅れることで、授業時間が十分に確保されないことが問題視されている。

③課題提出期間の短さ:課題の提出期限が短く、他の科目とのバランスが取りづらいという声

があった。特に、レポート課題が複数重なる時期には、余裕を持ったスケジュール設定が望まれる。

【授業改善への活用方法】

今回のアンケート結果から、授業の工夫に関する要望と授業運営の改善点がいくつか提案できる。

- ①授業の補助教材として動画を積極的に活用する。あるいは、授業で使用したスライドの解説動画を配信することで、学生が復習しやすい環境を整える。
- ②グループワークや演習を導入しアクティブ・ラーニングを促進する。授業内でのグループディスカッションやケーススタディを増やし、学生が主体的に学ぶ機会を提供する。
- ③フィードバックを重視した授業運営を行う。そのために、必要ならばインタラクティブな授業を行いやすくするツールの活用方法について研修を行うことも検討する。
- ④課題の提出期限を柔軟に設定し、学生の負担が過度に集中しないよう配慮する。

2024 年度後期授業アンケート報告書

グローバル・コミュニケーション学部

【実施期間】2024 年 12 月 9 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】61

【回答率】33.8% (773 人/2284 人)

【結果の概要・分析】

2024 年度後期の授業アンケート結果を分析すると、全体的に学生の授業に対する評価は非常に高いことがわかる。多くの設問で「よく当てはまる」「やや当てはまる」の回答が 90%以上を占めており、前期と比較して引き続き学生の満足度を維持していることが伺える。

評価項目から

- シラバスの活用について
81%の学生がシラバスを読んでいると回答している。(前期:76%)
この高い割合は、学生がシラバスを授業の重要な指針として認識し、積極的に活用していることを示唆している。
- 授業内容の理解について
93%の学生が教員の説明がわかりやすかったと回答している。(前期:94%)
この非常に高い割合は、教員の説明が明確で効果的であり、学生の理解を促進する質の高い授業が提供されていることを示している。
- 学習環境について
93%の学生が適切な学習環境が提供されていたと感じている。(前期:93%)
この高い評価は、快適で効果的な学習を支援する設備や雰囲気が整っていることを反映している。
- 教員の工夫について
94%の学生が教員が授業内容を理解するための工夫をしていると感じている。(前期:93%)
この高い割合は、教員が学生の理解を深めるために様々な教授法や教材を効果的に活用していることを示している。
- 将来への有用性について
95%の学生が授業が将来役立つと感じている。(前期:93%)
この非常に高い評価は、授業内容が実践的で、学生のキャリアや将来の目標に直接関連していると認識されていることを示唆している。

自由記述から

自由記述からは、以下のような点が高く評価されていることがわかる。

- 実践的な内容(プレゼンテーション、グループワーク、フリートークなど)

- 教員の丁寧な説明と質問対応
- 多様な教材の活用（動画、パワーポイント、WEB アプリ、LMS での教材提供など）
- 実際の経験談や具体例の提示
- 学生の興味を引き出す工夫（クイズ、アクティビティなど）

一方で、改善点として以下のような意見も見られた：

- 評価基準の統一
- 課題の最適化

2024 年度後期の授業アンケート結果は、前期に引き続き非常に高い評価を得ており、多くの項目で改善が見られた。特に、シラバスの活用、教員の工夫、将来への有用性の面で顕著な向上が見られた。これは、前期の結果を踏まえた改善努力が実を結んだものと考えられる。

一方で、課題の量や授業の進度に関する指摘もあり、これらの点については今後さらなる改善が必要である。

【授業改善への活用方法】

さらに強化（維持）する点

- 実践的な学習機会の拡充
プレゼンテーションやグループワークの機会を維持しつつ、さらに実践的なプロジェクトベースの学習を導入する。
- アクティブラーニングの促進
学生が主体的に参加できるアクティブラーニングの手法をさらに積極的に取り入れ、フリートークやディスカッションの機会を増やす。
- 多様な教材の活用
動画やパワーポイントに加え、最新のアプリやサイト等を活用した教材の導入を検討する。
- 個別指導の充実
オフィスアワーの活用を促進し、個別の質問や相談の機会を増やすとともに、オンラインでの個別指導等も検討する。

今後改善が必要な点

- 評価基準の統一
複数の教員が担当する場合、科目コーディネーターを中心として、評価基準を統一し、学生の混乱を防ぐ。
- 課題の最適化
課題の量と難易度のバランスを FD 等を通して再検討し、学生の負担を適切に調整する。

総じて、グローバル・コミュニケーション学部の教育は学生から高い支持を得ており、実践的で将来に役立つ内容を提供できていると言える。今後も学生のニーズと社会の要請にこたえる教育を継続しつつ、さらなる改善を図ることで、より質の高い教育を提供していくことが重要と考える。

2024 年度後期授業アンケート報告書

総合リハビリテーション学部

【実施期間】2024 年 11 月 11 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】33

【回答率】16.5%

【結果の概要・分析】

〈設問項目への回答から〉

「予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」という、時間外での学習への取り組みを問う設問については「当てはまる」が 70%、「あまり当てはまらない」が 30%弱であったが、「この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」については 90%以上が当てはまると回答し、授業への前向きな参加意識がうかがえた。

また、「この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか」「将来、この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」という設問については、ほぼ 100%が「当てはまる」と回答しており、授業に対する満足度の高さがうかがえた。

〈自由記載のコメントから〉

(肯定的な意見)

- ・レジメを使ってわかりやすく説明してくれたのがよかった
- ・スライドや動画(映像)、図形や絵などを使うことで理解しやすかった
- ・授業前後の小テストで授業がよりわかりやすくなった
- ・ワークなどで意見共有することでコミュニケーション力がついてよかった
- ・教員自身の体験談やリアルな意見を聞くことで内容を理解しやすかった

(要望等)

- ・要点をまとめてわかりやすくしてほしい
- ・テストに出るところを重点的に教えてほしい

【授業改善への活用方法】

- ・アンケートの回答については、授業時に教員から声掛けをする、授業時間内に回答時間を設けるなどの対応により回答率の向上に努める。
- ・科目担当教員がアンケートに目を通し、特に自由記述部分については参考意見として授業改善に努める。
- ・科目担当教員がアンケート結果のフィードバックを記入するよう、学部内で周知し、フィードバック回答率を高める。

2024 年度後期授業アンケート報告書

栄養学部

【実施期間】2024 年 11 月 11 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】73

【回答率】63.6%

【結果の概要・分析】

今年度前期の栄養学部のアンケート回答率は 78.3%となり、昨年度に比較して大幅な増加がみられたが、22 科目に限定しての実施だったため、今年度後期は、一部のオムニバス科目や学外実習を除くすべての科目(73 科目)について授業アンケートを実施した。

実施方法は、前期同様に各講義・実習内にてアンケートを回答してもらう形式を採用した。具体的には、FD 委員が事前に準備した授業アンケートに関するパワーポイントスライドを、最終回あるいはその 1 回前の講義・実習に提示し、5分間程度の時間を設けて授業アンケートに回答してもらうという統一した方法で行った。

その結果、各科目担当者の協力のおかげで、実施科目履修者数(のべ人数):3502 人のうち、2227人が授業アンケートに回答し、回答率は 63.6%となった。前期に比べ、アンケート回答率が約15%減少したが、非常勤講師の科目も含めアンケート対象科目数が大幅に増えており、多くの学生の声を集めることができた。

具体的なアンケート結果については、「あなたは、この授業を受講して、新しい知見や考え方を知ることはできましたか?」(3.48 ポイント)と「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか?」(3.50ポイント)という学生の成長につながる設問項目において前期に引き続いて高い評価を得た。また、多くの学生からの個別のコメントがあり、「丁寧で説明が分かりやすかった」、「小テストがあり復習ができた」、「わかりやすいイラストや図が書かれたレジュメがよかった」、「国家試験を意識した授業を行ってくれた」、「周囲と話し合う時間を作ってくれたので、理解が深まった」など好評価の声が多数あった。一方で、教員の声の大きさや態度、講義の進行速度および難易度、レポートの採点基準のあいまいさなどに対する不満の声が一部みられたため、こういった声もしっかり検証し、授業改善へつなげていきたい。

今回の授業評価アンケートは、前期に引き続き、多くの学生の意見が反映されたものであり、今後の授業改善につなげるための有益なアンケートとなったと思われる。

【授業改善への活用方法】

栄養学部では、前期同様に、今回のアンケートの全体集計結果を教授会メンバー全員に周知するとともに、各科目の授業アンケート結果を担当教員が必ず閲覧し、学生に対する返信コメントをするように教授会にて依頼を行っており、各科目の担当教員全員が、アンケート結果の検証を行って次年度以降の授業改善につなげるよう促している。

例年に比べ、今年度の授業アンケートの回答率は非常に高いものとなり、多くの学生と教員が本授業アンケートの実施の重要性を再認識するよいきっかけになったと考えられる。今後、学生からのコメントを含む授業アンケート結果の詳細内容について、匿名性を保ちながら全教員で共有することや、実際の授業改善例や好評だった授業での取り組み例などを学生に提示することを検討し、学生と教員の双方の授業アンケートに対する意識向上につなげていきたい。

2024 年度後期授業アンケート報告書

薬学部

【実施期間】2024 年 11 月 11 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】131

【回答率】14.6%

【結果の概要・分析】

全学部のアンケート集計結果と比較すると、薬学部では「授業の進め方」、「授業の分かりやすさ」、「学習空間としてふさわしい環境づくり」、「理解するための工夫」、「学生の理解度の教員による把握」、「新しい知見の獲得」などの項目において、ほぼ同等の評価が得られました。また、極端に低い評価が見られる項目はありませんでした。

一方で、以下の 2 つの項目については、薬学部の評価が全学部平均を上回っていました（カッコ内は全学部の評価の平均値）。

- 「この授業に積極的、意欲的に参加しましたか」:3.47(全学部平均 3.39)
- 「予習・復習といった授業時間外学習を行いましたか」:3.15(全学部平均 2.98)

この結果から、薬学部では良質な授業が提供されており、学生が積極的に学習に取り組んでいることが推察されます。また、6 年次に控える国家試験に向けて、下級生のうちから学習準備が進められており、知識の定着を目的とした課題や小テストが多いことから、授業時間外の学習が不可欠な状況であることがうかがえます。

また、薬学部独自の設問「あなたにとって、授業の難易度は適切でしたか」の評価は 3.18 となり、前期の 3.27 を下回りました。その内訳として、以下のような回答が得られました。

- 「レベルが高すぎる」:6%(前期 5%)
- 「情報が多すぎる」:9%(前期 6%)
- 「授業の進みが早すぎる」:5%(前期 3%)

これらの結果から、前期と比較して、授業を難しいと感じている学生が増えている傾向が認められました。

さらに、授業の難易度に対する学生自身の対応として、「友人に質問や相談を積極的に行う」、「専門書や参考書を積極的に活用する」、「勉強時間を 1 日のスケジュールに組み込む」、「課題や勉強の進捗状況を記録して振り返り、改善する」、「図書館など静かな環境で勉強する」といった回答も 2～5% 得られ、学生がそれぞれ工夫しながら学習に取り組んでいる様子がうかがえました。

【授業改善への活用方法】

今回の授業アンケートの集計結果から、全体的に特に大きな問題は認められませんでした。しかし、回答率が低かった点については、次年度以降に改善し、より多くの学生の意見を反映したアンケート集計を行うことで、より正確な分析を行う必要があると考えられます。

個別の内容については、授業の難易度に対する学生自身の対応策として「教員に質問や相談を積極的に行う」という工夫をしている割合がわずか 2%でした。この結果を踏まえ、教員がより質問しやすい環境を整え、学生が気軽に相談できる雰囲気を作ることが重要だと考えられます。

2024 年度後期授業アンケート報告書

共通教育センター／スポーツサイエンス・ユニット

【実施期間】2024 年 12 月 9 日～2025 年 2 月 6 日

【実施科目数】 共通教育:717 /スポーツサイエンス・ユニット:8

【回答率】 共通教育:25.3% /スポーツサイエンス・ユニット:6.7%

【結果の概要・分析】

・共通教育科目

回答率 25.3%は全学合計(20.36%)よりも高く、多くの非常勤講師を含む授業担当者が学生に対して回答を促していることがうかがえる。ただし 2024 年度前期(40.9%)よりは下がっており、また数値自体の低さには当然改善の余地はある。

各設問の回答の平均値について、概ね全体の平均を上回るかほぼ同程度の水準であり、これも非常勤講師を含む授業担当者がそれぞれ授業に対して尽力していることの現れであるといえる。

ただし、設問1「あなたは、この授業を履修登録する前に、シラバスを読みましたか」・設問 10「あなたは、将来この授業が役に立つことがあるかもしれないと感じましたか」の2つの設問は平均を下回っている。設問1(共通 3.08・全学 3.15)については、前期同様、必修や前後期の同時履修登録が比較的多い共通教育科目ではシラバスを読む動機が弱まっていると考えられる。設問 10(共通 3.42・全学 3.43)については、学生の主観的な評価であるとはいえ、間接・直接的に「共通教育センターが掲げる学生の到達目標」の「3. 生涯にわたって自発的に学び続けていくことができる」にもかかわることから、学生が共通教育科目を学ぶ意義を認識できるよう、まずは教員の側が再認識できるよう取り組む必要がある。

・スポーツサイエンス・ユニット

回答率は 6.7%とかなり低い結果となった。回答者が少ないため参考に留まるが、各設問についてはいずれも平均値を上回っている。

次年度以降、アンケート実施対象となる科目の選定を含め検討し、意義のあるアンケートとしたい。

【授業改善への活用方法】

共通教育科目は、科目数・クラス数ともに多く、授業形態やクラスサイズも多岐にわたる。また、多くの非常勤講師が担当している。各分野主任がそれぞれの分野において、アンケート結果を参考にするだけでなく、共通教育センター全体で結果や傾向・個別事例等を把握・共有し、改善すべきことに適切に対応できるよう議論や検討の機会を設ける必要がある。そのうえで、非常勤講師を含めた授業担当者が認識すべきことを共有し、必要な知識を得るための機会として FD 研修会等を実施する。

授業アンケートを、様々なレベルでコミュニケーションを活発にするための契機としたい。